

IR NAVI

アイアール
ナビ
vol.28

株主の皆様へ／代表執行役社長 越智 仁

●第12期中間決算のご報告

もっと知りたい！ 三菱ケミカルホールディングス
KAITEKIな仲間たち Vol.04

“KAITEKI実現”
チャレンジ!! KAITEKI
エンジニアリングプラスチックで
医療・ライフサイエンス分野に貢献



証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第12期 中間期のご報告

2016年4月1日 ▶ 2016年9月30日

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期（2016年4月1日から9月30日まで）における当社グループの事業環境は、機能商品分野及び素材分野においては、円高の進行により輸出環境は悪化しましたが、国内外の需要が堅調に推移し、ヘルスケア分野においては、本年4月に実施された薬価改定の影響があったものの販売が堅調に推移しました。当上半期の連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りであります。

当期の中間配当金につきましては、今後の事業展開の原資である内部留保の充実を考慮しつつ、中期的な利益水準に基づいて安定的に配当を実施するという方針に従い、1株につき8円とさせていただきます。

当社グループは、2016年度が初年度となる中期経営計画「APTSIS 20」をスタートさせ、真にグローバルな「THE KAITEKI COMPANY」としての基盤の確立に向け、諸施策を実行しております。2017年4月には、三菱化学㈱、三菱樹脂㈱及び三菱レイヨン㈱の化学系事業会社3社を「三菱ケミカル㈱」として統合し、有形・無形の経営資源を最大限に活用して新たなビジネスモデルを構築し、高成長・高収益型の企業体をめざしてまいります。田辺三菱製薬㈱においては、グローバルな成長に向け米国を中心とした海外医薬品事業の展開を促進し、大陽日酸㈱では、経営資源を戦略的に海外市場に投入することにより、グローバルに事業拡大を加速してまいります。また、㈱生命科学インスティテュートでは、ICT（情報通信技術）を活用した健康医療ビジネスの拡大と再生医療ビジネスの確立をめざしてまいります。

さらに、KAITEKI経営の一環として、従業員の健康を企業の持続的発展の重要な要素と位置づける「健康経営」を推進し、従業員の健康増進を通じて、グループ全体の生産性や創造性の向上、

CONTENTS

- 株主の皆様へ.....1
- 連結業績の概要.....2
- セグメント別業績.....3
- 各事業会社の活動・トピックス.....5
- もっと知りたい！三菱ケミカルホールディングス KAITEKIな仲間たち Vol.04.....7

※「APTSIS」とは、**A**gility（俊敏に、とにかく速く）、**P**rinciple（原理原則・理念の共有）、**T**ransparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、**S**ense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、**I**nternationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、**S**afety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

活性化を図ってまいります。

また、当社グループは、企業の社会的責任を自覚し、安全管理の徹底はもとより、コンプライアンスやリスク管理についてさらに徹底を図ってまいります。

当社グループは、これらの経営課題にグループの総力を挙げて対処し、企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月



代表執行役社長
越智 仁

- “KAITEKI実現” チャレンジ!! KAITEKI.....9
- 財務諸表の概要.....11
- 株式の状況.....13
- 会社概要.....14

連結業績の概要

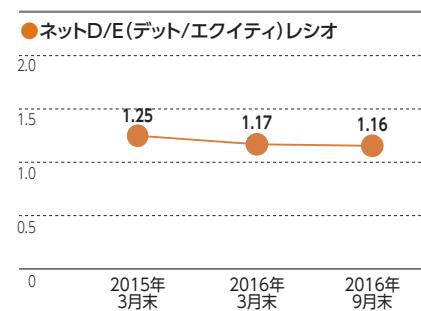
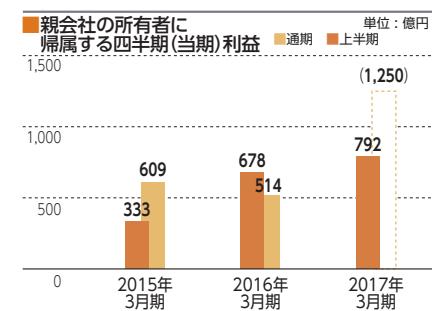
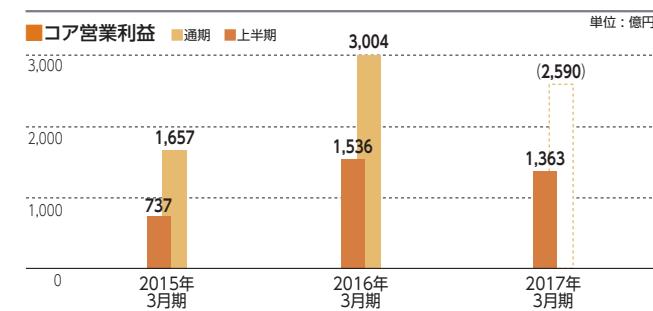
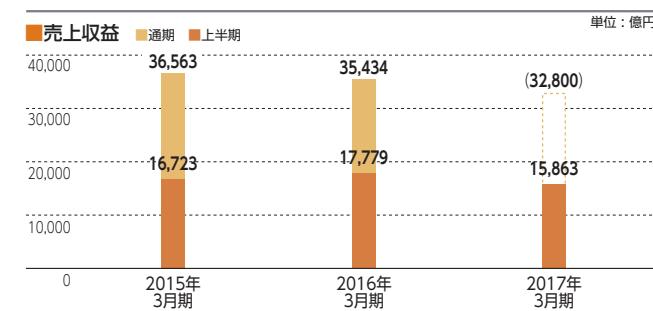
景気の緩やかな回復基調が続く中、増益となりました。

輸出環境が悪化したものの、需要が堅調に推移

当上半期は、円高の進行により輸出環境は悪化したものの、国内外の需要が堅調に推移しました。当上半期の連結業績は、売上収益は1兆5,863億円（前年同期比1,917億円減）となり、利益面では、コア営業利益は1,363億円（同173億円減）、営業利益は1,201億円（同333億円減）、税引前四半期利益は1,116億円（同360億円減）となり、親会社の所有者に帰属する四半期利益は792億円（同113億円増）となりました。

ネットD/Eレシオが0.01ポイント改善

資産合計は主に在外連結子会社の円貨換算額が減少したことにより、4兆1,477億円（前年同期比761億円減）となり、また、資本合計は、主に日本合成化学工業㈱株式の追加取得により非支配持分が減少したことにより1兆5,717億円（同244億円減）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.16となりました。

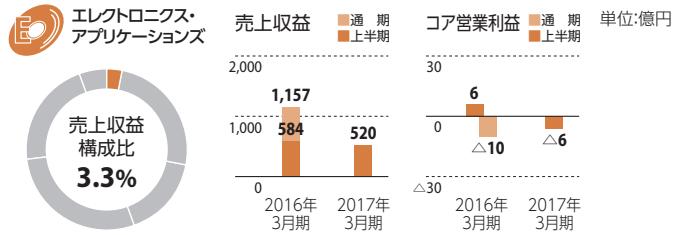


※ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
 ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - (現金・現金同等物+手元運用資金残高)} ÷ 自己資本
 ※（ ）内の数値は、2016年11月8日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。
 ※2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用しており、2016年3月期の数値もIFRSベースに組み替えております。なお、2015年3月期の数値は従来の日本基準に基づいておりますので、売上収益は売上高の、コア営業利益は営業利益の、税引前四半期（当期）利益は経常利益の数値を記載しています。
 ※コア営業利益とは、営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いた経常的な収益のことです。
 ※インド及び中国におけるテレフタル酸事業の譲渡決定（2016年7月27日公表）に伴い、両地域における同事業を非継続事業に分類しております。これに伴い、2017年3月期実績及び比較情報としての2016年3月期実績は、非継続事業を除いた継続事業の数値を記載しています。

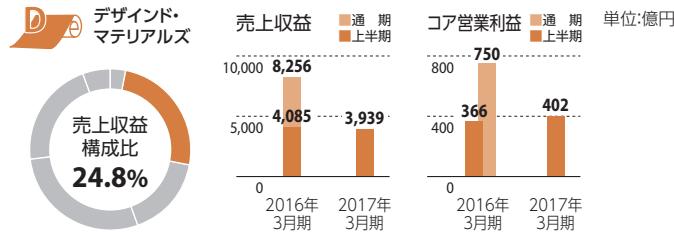
セグメント別業績

()内の数字は前年同期比

機能商品



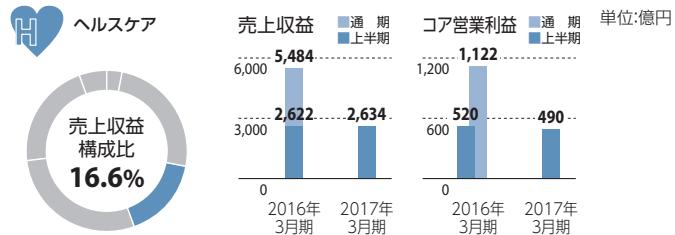
エレクトロニクス・アプリケーションズセグメント
 《売上収益》520億円(63億円減)
 電子関連製品…ディスプレイ材料等の販売価格が低下
 情報機材…OPC及びトナーの販売数量が減少
 《コア営業利益》△6億円(12億円減)
 円高の影響により減益



デザイン・マテリアルズセグメント
 《売上収益》3,939億円(146億円減)
 樹脂加工品…円高の影響等により売上が減少
 電池材料…自動車用電池向けの販売数量が増加
 複合材…アルミナ繊維の販売数量が増加
 繊維…輸出環境の悪化等により販売数量が減少
 《コア営業利益》402億円(36億円増)
 販売数量の増加に加え、原料価格の下落等が寄与し増益



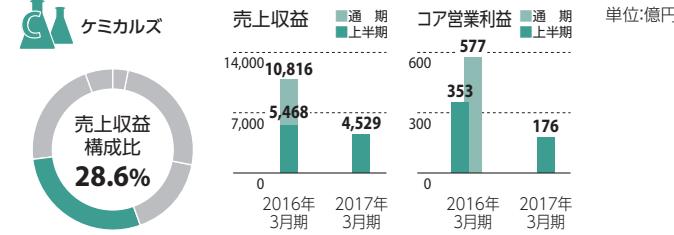
ヘルスケア



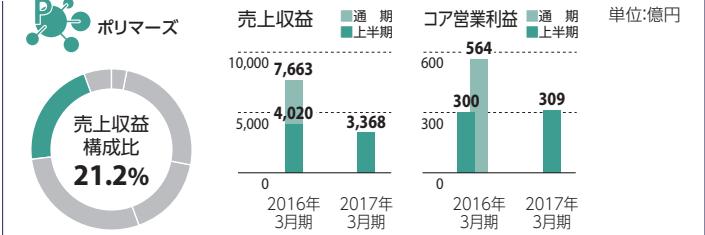
ヘルスケアセグメント
 《売上収益》2,634億円(11億円増)
 医薬品…関節リウマチ治療剤「シポンニー」及びワクチン等の販売数量が伸長
 製剤材料…販売数量が減少
 《コア営業利益》490億円(30億円減)
 薬価改定の影響等により減益



素材



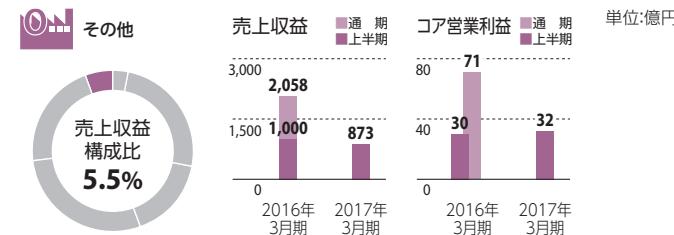
ケミカルズセグメント
 《売上収益》4,529億円(939億円減)
 基礎石化製品及び化成品…エチレンセンターの定期修繕の規模が拡大したこと等により売上が減少
 炭素製品…原料炭価格の下落に伴う販売価格の低下等により売上が減少
 産業ガス…円高等の影響により売上が減少
 《コア営業利益》176億円(177億円減)
 基礎石化製品及び化成品における原料と製品の価格差の縮小等により減益



ポリマーズセグメント
 《売上収益》3,368億円(652億円減)
 合成樹脂…原料価格の下落に伴う販売価格の低下等により売上が減少
 《コア営業利益》309億円(9億円増)
 原料価格の下落等が寄与し増益



その他



その他
 《売上収益》873億円(128億円減)
 エンジニアリング事業…外部受注が減少し売上が減少
 《コア営業利益》32億円(3億円増)
 固定費削減等により前年同期並み



三菱化学

機能商品

- 清水清三郎商店(株)と共同で、ゼオライト膜を用いて旨味・香り・アルコール成分を濃縮したアルコール度数30度の新しい濃縮酒「concentration 作凝縮 H」を開発し、伊勢志摩サミットの代表団ビュッフェで提供 (5月)
- 三菱化学ヨーロッパ社(ドイツ)と共同で、子会社の日本合成化学工業(株)株式の公開買付けを実施し(8月)、その後、株式売渡請求によって同社を完全子会社化 (11月)
- 子会社の日本化成(株)との間で、同社を完全子会社化することを目的とした株式交換契約を締結 (9月)



清水清三郎商店(株)の純米酒「作 穂の智」(ざくほのと)を原料に使用

素材

- 石化事業の構造改革として、インド及び中国における高純度テレフタル酸事業、並びに中国におけるポリテトラメチレンエーテルグリコール事業を譲渡することを発表 (7月)
- 植物由来プラスチック「DURABIO」が、ルノー社(フランス)の新型「Clio」(日本名「ルーテシア」)のメーターカバーに欧州車の部品として初めて採用 (8月)

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- 女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定で、厚生労働大臣から最高ランクの認定を取得 (5月)
- 公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金に対して、今後2年間で毎年2,000万円を出資することを決定 (6月)
- オリジナルキャラクター「たなみん」を制作 (6月)
- 選択的DPP-4阻害剤「テネリア錠」及びSGLT2阻害剤「カナグル錠」の配合剤について、2型糖尿病治療薬として日本で製造販売承認を申請 (8月)
- エダラボン (一般名) (日本製品名:「ラジカット」)について、筋萎縮性側索硬化症(ALS)を適応症として、米国で承認申請し (6月)、米国食品医薬品局が受理 (8月)



フワフワ真っ白な毛で覆われた大きな青い手を持つ妖精

三菱樹脂

機能商品

- 子会社のクオドラント社(スイス)が、パイパー・プラスチック社(米国)の全株式を取得し、完全子会社化 (5月)

- 太陽光と雨水で汚れを分解し洗い流すセルフクリーニング効果のあるアルミ樹脂複合板「アルポリック/ir光触媒コート」の販売を開始 (10月)



「アルポリック/ir光触媒コート」を採用したJR旭川駅(外壁の一部に使用)

三菱レイヨン

機能商品

- 宇部興産(株)及びJSR(株)との間で、宇部興産(株)との合弁会社であるUMG ABS(株)及び、JSR(株)の完全子会社であるテクノポリマー(株)のABS樹脂事業の統合について基本合意 (5月)
- 三菱レイヨン・クリンスイ(株)が、「和の食材」のおいしさを引き出す「水」の提供をめざし、「和食のためのクリンスイ」第一弾となるポット型浄水器2種類の販売を開始 (6月)
- 大竹事業所において、ラージトウ炭素繊維の生産能力を増強することを決定 (6月)
- ランボルギーニ社(イタリア)との間で、自動車用炭素繊維複合材分野における共同開発を検討する旨の基本合意書を締結 (9月)



お米をおいしくする「クリンスイ JP407-R」

- ファイバーライン・コンポジット社(デンマーク)との間で、風力発電向け炭素繊維複合材料積層板の製造・販売を行う合弁会社を設立 (10月)

大陽日酸

素材

- 超伝導電力機器を-200℃以下で冷却可能な大容量ターボ・ブレイトン冷凍機の販売を開始 (7月)
- ミャンマーにおける工業ガスの製造・販売事業の展開を目的として、子会社のタイヨウ・ニッポン・サンソ・ホールディングス・シンガポール社を通じて、ティラワ工業団地内に新事業会社の設立を決定 (8月)
- 子会社のマチソン・トライガス社(米国)を通じて、エア・リキード社(フランス)の米国での産業ガス事業の一部並びに関連する事業資産を買収 (9月)
- 幹細胞評価基盤技術研究組合の委託事業プロジェクトにおいて開発した、生体試料の温度履歴情報統合管理システムの販売を開始 (9月)
- マチソン・トライガス社(米国)が子会社を通じて、米国で液化炭酸ガス・ドライアイス製造設備の新設を発表 (9月)



大容量ターボ・ブレイトン冷凍機「ネオケルビンターボ10kW」

KAITEKIな仲間たち Vol.04

持株会社である当社とともに当社グループの事業の中核を担う、及び大陽日酸の6つの事業会社をご紹介します。

生命科学インスティテュート

会社名 株式会社生命科学インスティテュート
 本社所在地 東京都千代田区内神田一丁目13番4号
 (THE KAITEKI ビル)
 発足 2014年
 取締役社長 木曾 誠一

多様なソリューションで健康を願う人々を快適に

生命科学インスティテュートは、患者さんと健康を願うすべての人々のパートナーとして、総合的なソリューションを提供し、「健康であり続ける社会」の実現に貢献します。

健康・医療ICT



臨床検査から、診断薬、診断機器、健康診断、さらには、「じぶんからだクラブ*」まで、さまざまなサービスや製品を有機的に連動させるとともに、ICTを活用することでヘルスケア情報ネットワークとして健康維持・増進に寄与する取り組みを行っています。また、企業や自治体での新たな健康サポートビジネスにも取り組んでいます。

※ドラッグストアでの自己採血による血液検査をベースとした健康サービス。

次世代ヘルスケア



再生医療製品の開発や、その周辺機器の開発によるアンメット・メディカル・ニーズ*1の解消、また、非侵襲*2・低侵襲の新たな診断技術の開発を通じた疾病の早期発見に取り組んでいます。これらの取り組みに際しては、三菱ケミカルホールディングスグループ各社の技術との協奏により、早期事業化を図っています。

※1 アンメット・メディカル・ニーズ：有効な治療法、医薬品がなく、未だに満たされない医療上のニーズ。

※2 侵襲：体に及ぼす物理的負担や影響。

創薬ソリューション



製薬関連事業（医薬品原薬・中間体の製造、カプセル製造）及び創薬支援事業（非臨床試験・治験）における新製品、高付加価値の製品やサービスの開発に取り組んでいます。また、アライアンス&イノベーションにより新たな技術やアプリケーションを導入することで、製薬企業に高付加価値のワンストップサービスを提供します。

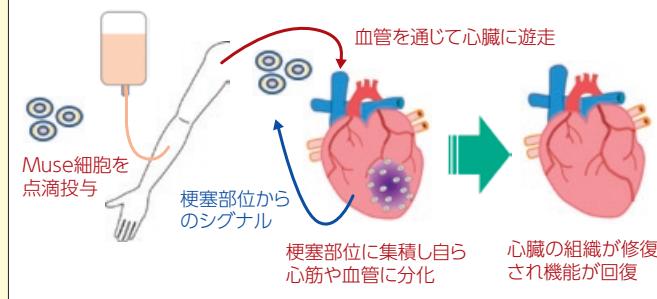
三菱化学、田辺三菱製薬、三菱樹脂、三菱レイヨン、生命科学インスティテュート
 今回は、生命科学インスティテュートです。

「Muse細胞」～再生医療に向けて～

Muse(ミューズ)細胞は、2009年に東北大学の出澤真理教授らのグループにより発見された細胞で、骨髄や皮膚(真皮)などの体内に元々存在し、体を構成するさまざまな細胞に分化できる幹細胞です。体内にMuse細胞が注入されると傷ついた臓器に集まり組織を修復します。また、点滴投与なので体への負担が少ないこと、腫瘍を形成する可能性が低いこと、一つのMuse細胞製剤で多くの疾患に適用可能なことなどのメリットがあります。

グループ会社のClioでは、Muse細胞製剤を用いた臨床試験を来年度から開始し、心筋梗塞を対象とした治験実施により有効性と安全性を確認したのち、さまざまな疾患を対象とした開発へ展開していく予定です。

心筋梗塞に適用した場合の概略図



KAITEKIへの挑戦

植物由来原料のカプセル

グループ会社のクオリカプスが世界で初めて実用化に成功した植物由来原料のカプセル「QUALI-V」は、動物由来原料のカプセルに比べ、カプセル自体の水分量が少ないため、乾燥環境下での使用や吸湿性の強い製剤処方でも割れることなく、広範囲の液状・半固形医薬物に使用できます。また、さまざまなサイズ・色があり、印字の種類も選べるなど、多様なニーズに対応できます。



じぶんケア・ステーション

グループ会社の(株)LSIメディアエンスが開発したカラダとココロの健康管理を自分のできるタッチパネル式ICT端末です。ドラッグストアや企業に設置して皆様にご利用いただくことを想定しています。現在、以下のアプリケーションを搭載しており、順次追加・拡充していきます。

- ・歩行評価 (テクテク君)
- ・お肌チェック
- ・認知機能チェック



“KAITEKI実現”

KAITEKIとは、時を越え、世代を超え、人と社会と地球の心地よい状態が持続することです。そのKAITEKI実現に向けた当社グループの取り組みをご紹介します。

「地下水膜ろ過システム」が水の安全と安心を守ります

三菱レイヨングループの(株)ウェルシは、地下水を膜ろ過により飲料化するシステム(「地下水膜ろ過システム」)のパイオニアであり、水の安全と安心を守るためのトータル・ソリューションの提供をめざしています。

「地下水膜ろ過システム」は、多くは100m前後掘り下げた深井戸から汲み上げた水を前処理(砂ろ過)し、通常の飲料水程度にまでろ過した後、高度な膜ろ過処理を施し、食中毒の原因となるO-157や細菌類・原虫類等も除去した安全性の高い飲料水を提供します。

「地下水膜ろ過システム」は、地下水を水源とするため、上水道料金が削減できる等のメリットがあります。また、公共水道が断水した時も水の確保ができるため、2016年4月の熊本地震では、「地下水膜ろ過システム」の納品先である病院は、断水地区にありながら自らの病院機能を維持しただけでなく、近隣住民や医療施設に水を無償で提供するなど、同システムが重要な役割を果たしました。

当社及び(株)ウェルシは、「地下水膜ろ過システム」による国内外の持続可能なまちづくりへの貢献が評価され、2016年10月に、イノベーションによる新産業の創出等によって社会課題を解決する自治体や企業等の取り組みを表彰する第4回プラチナ大賞において、優秀賞を受賞しました。

また、(株)ウェルシは、2013年には企業が災害等の発生した場合に備え、効率的かつ効果的に対応するための事業継続に関する国際規格であるISO22301認証を地下水飲料化事業として初めて取得しました。

さらに、2013年には、国連開発計画と共同で、ケニアの農村部に緩速ろ過装置を設置して川の水を飲料化するとともに、その際に利用した活性炭を土壤改良剤として再利用し伝統野菜の栽培を復活させるなど、浄水・農業振興ビジネスモデルを開発し、現地住民の経済的な自立を支援しました。

これからも、人々の暮らしに欠かせない水を守り、KAITEKIな生活を実現するべく努めていきます。



地下水膜ろ過システム



熊本地震で活躍した「地下水膜ろ過システム」(武蔵ヶ丘病院)



チャレンジ!! KAITEKI 11

エンジニアリングプラスチックで医療・ライフサイエンス分野に貢献

飛躍的に性能が高まった エンジニアリングプラスチック

かつてプラスチックは脆くて熱に弱いというイメージがありましたが、新たな分子構造を持ったものや複合材料が開発され、飛躍的に性能が高まりました。中でも、エンジニアリングプラスチック(エンプラ)は、耐熱性、耐衝撃性、耐摩耗性に優れており機械部品、自動車用部品、電子・電気機器部品等に活用されています。

優れた特性で人工関節の耐久性を向上

人工関節は、つらい関節痛の患者さんの治療等に使われますが、交換するためには手術が必要となるなど、患者さんにとって大きな負担となるため、耐用年数の向上が求められていました。

三菱樹脂グループのクオドラント社(スイス)が開発したライフサイエンス向けエンプラである「MediTECH」は、優れた性能をもつ超高分子量ポリエチレンを使用し、世界各国で人工関節等に使われています。

「MediTECH」を用いた人工関節は、軽くて衝撃に強く潤滑性に優れているだけでなく、酸化や劣化の抑制により、長期にわたり寸法安定性を維持できるため、耐用年数が延びることで患者さんの負担を軽減し、快適な暮らしの実現を支えています。



「MediTECH」を用いた人工関節

医療・ライフサイエンス 分野におけるエンプラの ここが KAITEKI

潤滑性に優れているので さまざまな用途で活用

超高分子量ポリエチレンを使用しているので、優れた自己潤滑性、耐摩耗性、軽量性を活かし、人工関節以外に、整形外科、歯科のインプラントや手術用トレイ、医療現場の設備等さまざまなところで使われています。

超高分子量ポリエチレンは、通常2~30万の分子量を500万~900万まで高めたポリエチレンです。そのため、

1. 耐衝撃性(割れにくい)
 2. 耐摩耗性(すり減りにくい)
 3. 自己潤滑性(よく滑る)
 4. 耐薬品性(酸などに強い)
 5. 低温特性(寒冷地でも性能が落ちない)
 6. 無毒性(食品・医療分野でも安全)
- などに優れています。

財務諸表の概要 (国際会計基準 (IFRS) に準拠)

連結財政状態計算書

(単位:億円)

科目	当上半期 [2016年9月30日現在]	前期 [2016年3月31日現在]
(資産)		
流動資産	17,612	18,567
現金及び現金同等物	2,815	2,671
営業債権	7,159	7,691
棚卸資産	5,044	5,495
その他の金融資産	1,599	2,145
その他	994	565
非流動資産	23,865	23,671
有形固定資産	13,669	14,034
のれん	2,935	2,679
その他の金融資産	2,424	2,518
その他	4,838	4,440
資産合計 Point 1	41,477	42,238

Point 1 資産合計
主に在外連結子会社の円貨換算額が減少したことにより、資産合計は減少しています。

(単位:億円)

科目	当上半期 [2016年9月30日現在]	前期 [2016年3月31日現在]
(負債)		
流動負債	14,600	14,417
営業債務	3,805	3,941
社債及び借入金	7,476	7,067
その他	3,319	3,409
非流動負債	11,160	11,859
社債及び借入金	8,156	8,729
その他	3,004	3,131
負債合計	25,760	26,276
(資本)		
資本 Point 2	15,717	15,962
資本金	500	500
資本剰余金	3,183	3,175
自己株式	△162	△162
利益剰余金	6,792	6,109
その他の資本の構成要素	△387	100
親会社の所有者に帰属する持分合計	9,926	9,722
非支配持分	5,792	6,240
負債及び資本合計	41,477	42,238

Point 2 資本合計
主に日本合成化学工業株式の追加取得により非支配持分が減少したことから、資本合計は減少しています。

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当上半期 [自2016年4月1日 至2016年9月30日]	前上半期 [自2015年4月1日 至2015年9月30日]
(継続事業)		
売上収益	15,863	17,779
売上原価	11,111	12,788
売上総利益	4,752	4,991
販売費・一般管理費	3,440	3,515
その他の営業収益	42	91
その他の営業費用	227	114
持分法による投資利益	74	80
営業利益	1,201	1,534
金融収益	44	51
金融費用	129	109
税引前四半期利益	1,116	1,476
法人所得税 Point 3	24	451
継続事業からの四半期利益	1,093	1,025
(非継続事業)		
非継続事業からの四半期損失	1	59
四半期利益	1,091	967
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	792	678
非支配持分	300	288

Point 3 法人所得税
法人所得税は、主にテレフタル酸事業の譲渡に関連した繰延税金資産計上により減少しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当上半期 [自2016年4月1日 至2016年9月30日]	前上半期 [自2015年4月1日 至2015年9月30日]
税引前四半期利益	1,116	1,476
減価償却費	844	906
たな卸資産	123	△109
営業債権債務他	△127	△1,595
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,956	678
有形・無形資産取得	△960	△938
投資・子会社株式取得	△1,279	△508
その他	996	1,430
投資活動によるキャッシュ・フロー Point 4	△1,243	△16
有利子負債	453	310
配当金他	△693	△237
財務活動によるキャッシュ・フロー	△239	74
現金・現金同等物に係る換算差額	△225	△12
現金・現金同等物の増減額	249	723
現金・現金同等物の期首残高	2,671	2,527
新規連結等に伴う 現金・現金同等物の増減	△105	2
現金・現金同等物の四半期残高	2,816	3,253

Point 4 投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動によるキャッシュ・フローは、エア・リキード・インダストリアル・ユーエス社及びエア・ガス社からの事業譲受による支出により、支出が増加しています。

株式の状況

株式の状況 (2016年9月30日現在)

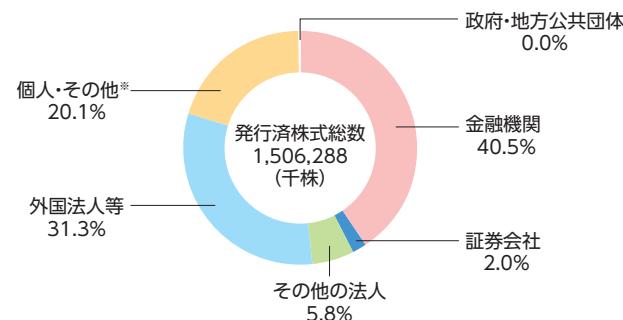
発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	168,912名

大株主 (2016年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	86,657	5.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	82,812	5.6
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.3
日本生命保険相互会社	42,509	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	24,155	1.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	24,149	1.6
東京海上日動火災保険株式会社	23,074	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	21,129	1.4
ザバンク オブ ニューヨーク メロン エヌイーエヌバイ 10	20,259	1.3
シービーエヌワイ ガバメント オブ ノルウェイ	19,296	1.3

※上記のほか、当社が自己株式として41,425千株を保有しておりますが、上記出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布の状況 (2016年9月30日現在)



※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.7%)が含まれております。

会社概要

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名: Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒100-8251
東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
(パレスビル)
電話 03-6748-7200

資本金 500億円

取締役 (2016年9月30日現在)

小林 喜光	取締役会長	梅葉 芳弘	取締役
石塚 博昭	取締役副会長	浦田 尚男	取締役
姥貝 卓美	取締役副会長	橘川 武郎	社外取締役
越智 仁	取締役	伊藤 大義	社外取締役
三津家正之	取締役	渡邊 一弘	社外取締役
市原裕史郎	取締役	國井 秀子	社外取締役
ルン・フリクソ	取締役	橋本 孝之	社外取締役

※当社は社外取締役である橘川武郎、伊藤大義、渡邊一弘、國井秀子及び橋本孝之の5氏を、(株東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

※各委員会の構成は次の通りです。
指名委員会: 橘川武郎(委員長)、小林喜光、越智 仁、國井秀子、橋本孝之
監査委員会: 梅葉芳弘(委員長)、浦田尚男、伊藤大義、渡邊一弘、國井秀子
報酬委員会: 伊藤大義(委員長)、石塚博昭、姥貝卓美、橘川武郎、渡邊一弘

執行役 (2016年9月30日現在)

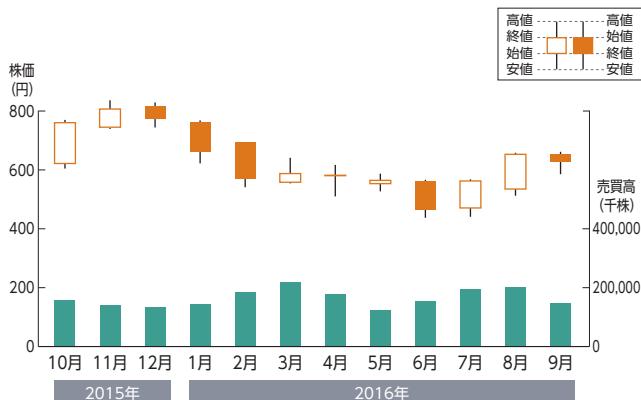
越智 仁	代表執行役 執行役社長
大平 教義	代表執行役 執行役専務 政策・渉外室 広報・IR室(広報)、総務室 人事室、内部統制推進室 コンプライアンス推進統括執行役
小酒井健吉	代表執行役 執行役専務 経営管理室、広報・IR室(IR) 情報システム室 最高財務責任者
唐津 正典	執行役専務 グループ基盤強化室(製造・レスポンスブルケア、購買、物流、エンジニアリング)
吉村 修七	執行役常務 経営戦略室(総合・ケミカル) 経営戦略室(ヘルスケア) グループ基盤強化室(エリア戦略、マーケティング、自動車関連事業推進)
ルン・フリクソ	執行役常務 R&D戦略室
ステーブ・ユリック	執行役常務 グループ基盤強化室(エリア戦略、マーケティング、自動車関連事業推進)

※越智 仁及びブレン・フレデリクソンの両氏は、取締役を兼務しております。

配当の状況

1株当たり配当金 (円)			
	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
中間	6	7	8
期末	7	8	(8)
合計	13	15	(16)

株価・株式売買高の推移 (東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用ください。
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/>



当社ホームページでは、プレスリリースや中期経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

三菱ケミカル

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及びお問い合わせ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

IR NAVI アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報 (IR情報) をよりわかりやすく株主の皆様へナビゲート (道案内) していきたいという意味を込めております。



株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けいただく必要がございます。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められた通り、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な
支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

単元未満株式 (1株~99株) をお持ちの株主様へ

単元未満株式 (1株~99株) とは当社の最低売買単位である1単元 (100株) に満たない株式のことをいいます。単元未満株式 (1株~99株) については、証券市場で売買することはできません。

単元未満株式をお持ちの株主様は、市場価格で、単元株式 (100株) にするために必要な株数を当社からご購入 (買増制度) または単元未満株式を当社に対しご売却 (買取制度) いただくことができます。

上記に関する
お問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主様
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)